

【第5回みんなのなかしべつプロジェクト開催報告】

◇日 時：平成29年11月6日（月） 19：00～21：00

◇場 所：計根別農業協同組合 2階会議室

◇出席者：22名

テーマ：計根別地区の来年度の取組について検討しましょう。

○計根別地区から前回（第4回）に参加しての振り返り

- ・中標津に限らない話だが、太陽光パネルが各地域にあって、その立地も林の中や道路の傍となり、それも景観の一例になるかと思うが、アピールのしようもない状況なので、なにかいい方法がないかと思っている。
- ・計根別で個人の住宅や牛舎に対し、自然に合わない色だからといって、色の強制はできないし、景観を阻害している木なども個人の所有物なので、勝手に切るわけにもいかない。
- ・前回でも報告したが、農業者向けに国からの助成を受けて、郡部で置き去りにされている廃屋を積極的に片付けようとしている。今日も3か所の物件を片付けに向けて見てきた。農業者に向けてのこういった景観に対する意識付けは進んでいると思っている。
- ・沿道景観調査の話聞いて、計根別で実施する際には農業高校の生徒と共に進めることができれば良いなと思った。
- ・色のワークショップの話が出ていたが、2月に開催予定ということで中標津市街地の子どもたちは参加してくれると思うが、計根別の子どもの参加は難しいと思う。計根別学園の子どもたちに向けて、社会学習の一環として計根別でも色のワークショップが出来れば良いと思う。

○計根別連合町内会より要望書を提出の経過

要望書そのものに対してはいつ対応するという話にはなっていないが、町長からは計根別の総合発展計画に着手するという話があった。具体的にいつという話ではないが、確実にやるということは町長から明言してもらっているので、環境や文化的なものを含めて今から話をしても無駄にはならないと思う。

これらは子供を巻き込むというのがキーワードだと思っている。沿道や街路樹、その他の自然林についても、子供の目線で安全か不安かというのを十分に取り入れ、遊具等についてもしっかり意見を出して場所の設定をどうしていくか、また児童館や幼稚園も老朽化が進んでいるので、小学校の跡地を今後どうしていくかということも含めて場所の設定などを、将来構想として計根別全体で考えていく時期だと思う。

あかしの碑についても10月1日付で町長に要望書を提出し、壊す予定だったものを残してもらった。管理等については計総振（計根別地域総合振興対策協議会）、郡部も

含めた地域全体で管理し、費用も当然自分たちで見ていくということになった。土地については無償借受となっている。それ以外の土地は今まで同様町の管理となっている。今後あかしの碑が文化的価値として認められる、あるいは卒業生や関係者のよりどころとして認知されたおりには、町に再度明け渡して、町で管理をしていただくというのを含めて申請し、受理された。あかしの碑の敷地を確認して、地図に落とすという作業が残っている。

今回を含め、計根別で2回も協議していただくということは、時期としても良いですし、計根別町民に対して刺激になると思うので、感謝しております。

○中標津市街地から計根別地区を見て

- ・計根別は中標津市街に比べて、町内会同士の密着性がより深いと感じた。
- ・計根別の方々は何にかしようという熱意があり、実際に動いていて凄いなと思う。
- ・普段から計根別を通るたびに綺麗になったなと思っていた。昔に比べて戸数は減っていないが、空き地が増えたと思うので、なにか考えているとは思いますが、工夫がほしい。
- ・道道の北側に桜があり、今はどうなっているかはわからないが、昔は綺麗だった。

○計根別地区の歴史・遺跡について

- ・先日中標津の郷土館に行ったが、計根別や養老牛の遺跡が中標津に比べると少なく感じた。計根別には遺跡が少ないのか。
- ・計根別には住居跡などの遺跡がたくさんあり、昔は札幌から調査に来ていたが話が立ち消えてしまった。
- ・当時そういった場所を畑にする際には教育委員会に届出を出す必要があったのだが、その時には積極的に掘らず、もっと科学技術が進んだときに掘ったほうがいいのではないかという話になり、手をつけなかった。
- ・計根別には確かに遺跡はあるが、木や笹が生えてしまっている。根が張っているが、遺跡があるので機械で抜根することもできない。
- ・先ほど言っていた通り空き地は増えたが、昔そこにあった計根別の老舗の話など、計根別の歴史について戦前生まれの方から話を聞いてみたい。
- ・中標津町ではないが、隣町の別海町には掩体壕があり、昔に掩体壕を残せばいずれ価値が上がるので取り壊さないようにとお願いをしていた。
- ・話を聞き取ることも地域づくりになるが、さらに聞き取ったことを加工し、絵本を作るなどして子供たちに伝えるなど、語り部の活動をすれば観光にも使えるし、子供たちのまちづくりにもつながる。

○来年度の活動案について

①計根別地区の歴史の聞き取り調査

ご高齢の方に計根別地区の歴史や遺跡の聞き取りを行う際には、東田さんはサポートに回り、高校生が聞き取りを行うことで一生懸命話してくれると思う。聞き取ることが出来そうな方は何人か思い当たりがあるので、5人を目途に計根別のメンバーで検討しておく。

②計根別の色探し

計根別にはどんな色があり、どんな色が多いかなどをまち歩きをして見つけたい。人数について中標津ではバス1台の30人を想定しているが、中標津と同じやり方とは限らない。あくまで計根別でやりやすい方法で検討する。計根別の色探しは計根別学園の児童や農業高校の生徒、さらに計根別の方だけでなく、計根別に通っている郡部の方も対象として行いたい。市街地を歩くだけならばバス代もかからない。

③計根別学園での3D地図作り-景観学習-

昨年度は計根別学園で景観学習を実施し、今年度は東小学校で実施した。当日は中標津町民が設立したNPOであるN-CAN（なかしべつ町民活動ネットワーク）よりサポート役として手伝ってもらった。計根別学園でも実施したい。また、計根別学園で実施する際には、農業高校の生徒にサポート役をしてもらいたい。

- ・計根別学園での実施については、計画の中で景観学習が3・4年生に入っている
ので問題ない。
- ・農業高校の生徒にいきなりサポーターをさせるというのは難しいと思うので、計根別の大人の方が最初にやるという考えもある。

④ランタンづくり

計根別地区には幼稚園、計根別学園、農業高校、計根別農協があり、地域としても酪農家が多いが、それぞれの関わり合いが薄いと感じていた。そこで、それぞれが関わり合いをもてるイベントとして、ランタンづくりを前回の会議で提案した。

まず計根別農協の指導で農業高校がハロウィン用のカボチャを作り、そしてできたカボチャを計根別学園の生徒に、技術の時間などでランタンを作ってもらおう。刃物を使うので対象は5・6年生で、ランタン自体は1時間でできる。そして作ったものを町に飾り、飾られた町を計根別幼稚園の児童が商店や農協やその他企業さんにお菓子をもらいに歩き、また子どもが仮装して歩くことで、お年寄りの方も見る事ができる。こうして沿道を飾ることで、幼稚園、学園、高校、地元の企業が1つとなったイベントとして、計根別を活性化できると思う。そういったイベントを計根別でやっ

ているということの中標津や北海道全体に売り込んでいけると思う。富良野などでもやっているが、ハロウィンのイベントをやっている町は少ないので、中標津の一部としてではなく、計根別としてPRしていけるイベントになると思う。実際にはどこでやるかや、費用などの面で難しい部分はあるが、ランタンに限定せず、計根別のみんなが関われるイベントが出来たらいいなと思っている。

- ・実際に農業高校でカボチャについて検討してみたが、カボチャの苗は立てられるが、植える場所がない。場所があればカボチャづくりは可能。
- ・植える場所については、計根別小学校跡地を利用すればいいのではないかと。要請して許可をもらえばできるかもしれない。すでに幼稚園で利用しているところを外せば大丈夫だろう。
- ・ゆめの森公園でもECCジュニアの協力でランタンづくりをしている。

この企画はとても面白いが、計根別学園では地域を知って、地域を愛して、地域に誇りをもつ学習ということで作っていて、その中に景観学習も入っている。そこに新しく足し算でいれるとしたら引き算も必要になるので、実際にやるのであれば計画を変える必要があり、「やったら楽しいんじゃないか」くらいの意見ではなかなか難しい。教育活動の時間を使うのであれば、イベントで終わらず持続可能な取組として、最終的には地域活性化と子供の健全育成を含んだ人材育成になり、ただ街並みを綺麗にすればいいという話ではないので、実際にやってみてイマイチだったでは困るのではないかと思います。

実際に実施すれば子供たちは喜ぶとは思いますが、「じゃあ何年生がやるのか、全校でやるのか」などの後の話は学校で考えてねではづらい。地域清掃も景観にプラスになるようにやっていて、43名の参加あるなどいろいろな人が関わっていて、そういった今あるものをどう生かすかという視点も大事だと思う。運営協議会で頭出しをするくらいならいいのではないかと。

- ・計根別学園では10月末に学園祭があり、そうするといつ作るのかというのを具体的に考えると、着手するとなると難しいのかなと思う。
- ・先ほどの通りランタンに限定せず、別の話に変えられるかもしれないが、現場としては難しいと考えている。
- ・実際にやるとなったときに、いつまでカボチャを作ってくださいとなっても現実的ではないとも思う。
- ・まずは町内会規模で子どもではなく、全体でやってみて、何年か続いた後に子どもと一緒にやろうという話になるのがいいかもしれない。
- ・計根別学園の児童生徒会では8年生9年生が地域に貢献するような特別委員会にしているので、そのメンバーに携わらせてもいいと思う。

- ・まずは大人で試してみるのがいいということで、考えてみよう。

○計根別学園の取組

これから、12月15日にふるさと活性化の卒論発表会というのが9年生にある。3月14日には9年生がそれぞれの誇りを語るという卒業式があり、3月22日には夢の式で4年生が私の夢を語る。立志式では7年生が自分の志を語り、23日には修了式に6年生が感謝を語るなどをしており、それらをいろんな人に見に来てほしい。どこにPRすればみんなに来てもらえるだろうか。

- ・ビデオで撮影し交流センターで流すなどはどうか。
- ・生でも見てほしいという思いもあるが、行ける年代なども限られる。
- ・ほかにも地域清掃や、チャレンジウォークといって北根室ランチウェイもやっているのので、そういった既存のものに対して、協力してもらえたらとても嬉しい。
- ・それぞれのつながりや、どんなことをやっているということを知りあわないと、それぞれが別々にやっているのでは駄目だと思う。横串を入れるのが大切。

○フォーラム実行委員会について

仮置きで2月24日、25日に予定している色のワークショップと景観まちづくりフォーラムを、実行委員会形式で進めるのだが、その実行委員会自体は次回の会議1月15日から本格的に動き出す。計根別地区から参加していただくとありがたい。

⇒他薦により細谷俊輔さん、石本圭子さんに決定。



(おわり)